

# 酒井教授信用性、一覽性を強調

## 「今こそ紙の新聞を」

### 「読む力、考える力」講演



活字媒体の有用性やAIの現状、及ぼす影響を話す酒井教授

福島市で24日に開かれた福島民友新聞社の教育事業「読む力、考える力」。登壇した東京大大学院総合文化研究科の酒井邦嘉教授

「身につくものは少ない」との見解を示した。

講演後、県内の高校に勤める男性教諭(47)は「生徒

は、多様な情報を簡単に入手できる現代だからこそ「紙の新聞で正しい情報に触れ、読書で想像力を育んでほしい」と呼びかけた。

酒井氏は、取材に基づく情報源が示されている新聞は信用性が高いと明言した上で「繰り返し読むことに適しており、一覽性にも優れている」と紙面の利点を挙げた。一方、多くの情報や意見が飛び交うインターネットへの過剰な依存を危惧し「短絡的な反応を助長してしまう」と理由を説明した。自分で考える前にネットを検索してしまうため

新聞に親しんだ。

会場には「新聞活用コーナー」が設けられ、新聞の読み方や見出しの付け方などをパネルで紹介した。本紙や子ども向けの「みんなのジュニア情報局」の特別版も並び、訪れた人たちが

らに手書きの学習の良さを説明していきたい」と述べた。福島成蹊高2年の黒田望来さん(16)は「授業でもデジタル化が進んでいるが、自分で書くことを意識して学習したい」と話し、交流サイト(SNS)や生成人工知能(AI)の利用については「調べる前に自分で考えることを意識したい」と語った。



新聞の読み方や見出しの付け方などをパネルで紹介した新聞活用コーナー

※講演要旨別紙

▲11月25日 福島民友新聞掲載

新聞の利点は何だと酒井教授は言っていますか。

デジタル教科書や生成AIに関して、酒井教授はどのような危惧を持っていますか。

この記事から、新聞の活用やデジタル教材についてどのようなことを考えましたか。